

うなインターンシップを単位として認定するなどの措置は取っており、学生にとってはメリットといえるが、今後さらにインターンシップの機会、商学研究科独自のインターンシップを増大させることも必要である。

博士課程後期課程学生および研究員は、論文刊行機会の提供や学会発表出張費補助などを活用して学会発表を行っており、この制度は成果をあげている。

筆記試験とレポート試験等での成績評価の整合性について、学生からのクレームは無いが商学研究科の中で統一した評価基準について検討する必要がある。

(改善の具体的方策)

今後インターンシップを学生が活用できる機会をより拡大していく必要がある。また、筆記試験とレポート試験等での成績評価の整合性について、商学研究科の中で統一した評価基準作成について検討をする必要がある。

6.2.3.4 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

（必須要素）教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況

（必須要素）シラバスの作成と活用状況

（必須要素）学生による授業評価の活用状況

（選択要素）学生満足度調査の導入状況

（選択要素）卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況

（選択要素）高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<2003年に設定した目標>

1. 教育・研究指導について各分野間、および全体での検討
2. 商学研究科の全科目についてシラバスの配布の検討

(現状の説明)

1. 現在、商学研究科では、経営、会計、流通マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野がある。これらの各分野では、毎年各分野に所属する教員が集まり、分野ごとに教育の質を高めるための方法、研究指導についての話し合いがもたれている。このような話し合いにより、体系だった知識の修得が可能となり、効率的で関連性のある教育を提供することができている。
2. シラバスの作成と活用状況については、主として社会人を対象とする夜間の科目について、全科目シラバスを事前にネットに掲載している。このことは講義内容を事前に学生に知らせることにより、学生の科目選択に役立っている。昼間の学生のための講義については、ネット上で掲載はされておらず、講義の最初に教員によって示される状態である。また、すべての講義でシラバスの配布を義務付けていないため、すべての講義でシラバスが配られているわけではない。ただこれは大学院の授業の受講生が少ないため、学生の希望、能力を見極めた上で講義が行われるという事情もある。

3. 学生による授業評価については、現時点では学生による授業評価を義務付けていない。これは、大学院の授業が少人数であるため、学生による評価になじまないこともある。比較的規模の大きい授業などでは、教員による独自の方式で学生に対してアンケートなどを通じた授業評価を行っている。

(点検・評価の結果)

1. 教育改善への取り組みとして、商学研究科では分野ごとに教育の質を高める方法、研究指導についての話し合いが行われており、それらは提供する科目の内容にも影響を与えている。しかし、現時点では分野間での連携や商学研究科全体としてのFDについて十分に時間をとった話し合いは行われていない。
2. シラバスについては、授業の受講生が少ない科目が多いため、学生の希望、能力を見極めた上で講義が行われるという事情もあるが、全授業でのシラバス配布を義務付けることはしていないが、社会人を対象とした授業をはじめ比較的多くの授業においてシラバスの配布は行われている。
3. 学生による授業評価については、大学院のような少人数の授業は学生による評価になじまないこともある実施していないが、一部の授業では教員による独自の方式で学生に対してアンケートなどを通じた授業評価を行っている。

(改善の具体的方策)

1. 各分野での教育の質を高める方法、研究指導についての話し合いのみではなく、分野間での連携について、商学研究科全体としてのFDの話し合いを行う。
2. シラバスについては、授業の受講生が少ない科目が多いため、学生の希望、能力を見極めた上で講義が行われるという事情もあるが、全授業でのシラバス配布に向けた取り組みを行う。
3. 学生による授業評価については、大学院のような少人数での授業が行われる中でどのような評価方法がよいのかについて検討し、実施する。

6.2.3.5 学位授与・課程修了の認定

【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性